

令和 7 年 6 月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	7	議席 番号	9	氏名	稲 葉 晃 司 議員	1 / 2
発 言 項 目				要 旨		答 弁 者
1	富士地域医療圏域における現状と課題について～地域医療を守るために2025その2～			(1) 令和 7 年 4 月 30 日から運用が開始された富士地域救急プロトコル（富士医療圏域の救急搬送困難事案の削減を目的とした救急搬送の基準）について伺う。 ① プロトコルでは「病院照会が 3 回または、20 分経過しても受入れが富士医療圏域で定まらない場合は、地域外に照会し早急に医療介入ができるようにする」とあるが、医療圏域内の病院照会回数と時間に制限を設けることにより地域外の搬送が増加することが考えられる。運用されてからまだ 2 か月程度ではあるが、救急搬送困難事案の解消への見通しはいかがか。 (2) 富士市が令和 7 年 6 月 6 日に発表した「ラピッド・ドクターカー」について伺う。 ① 静岡県内 8 医療機関がドクターカーを導入しているとのことだが、ドクターカーが要請される事案はどのようなケースが考えられるのか。 また、富士宮市が要請する場合、静岡県立総合病院等が考えられるが、富士宮市が要請をかけるケースはどのような場合になるのか。 ② 今回の富士市立中央病院の取組はあくまで富士市内で発生した救急案件に対応するものと捉えている。富士市・富士宮市消防指令センターの住み分けはどのように行われるのか。 ③ 市当局は同じ医療圏域の富士市の取組についてどのように捉えているのか。富士市だけの取組ではなく、富士宮市も救急専門医の招聘に注力していく考えはないのか。今すぐに救急専門医の招聘は難しいとしても同じ医療圏域であることから富士宮市民が救われることも考えられる。この取組に対して何らかの協力はできないものなのか。 (3) 災害時における在宅酸素療法（HOT）の患者さんに対する対応について伺う。 ① 富士宮市内の HOT の患者の人数等は把握していないとのことであるが、災害時における対応と避難所での充電用電源の確保や機器本体に必要な資機材等の準備は、どのようなプロセスを経て行われていくのか。市当局の考えはいかがか。		市長 副市長 教育長 病院長 関係部長
2	2004 年 7 月から一般の人が A E D を使用できるようになってから 20 年が経過した。富士宮市のこれまでの取組を振り返る			(1) 2004 年 7 月から A E D によって救われた命が約 8,000 人といわれている。富士宮市内で、これまでに普通救命講習を受講した市民の延べ人数はいかがか。また、富士宮市内において A E D を使用して救われた命はどれほどか。 (2) 毎月第 3 金曜日に中央消防署にて普通救命講習が行われている。受講された方たちの中から、一般市民向けの普及員講習を開催してほしい旨の要望を耳にする。普及員の講習には 1 日 8 時間の講習を 3 日間、計 24 時間の講習時間が必要なことから実現が困難であることは承知している。そこで、1 回 3 時間の講習を 8 日間開催して、累計 24 時間の講習に参加したと同様の扱いにするといった講習の取組は検討できないか。		市長 副市長 教育長 関係部長

令和 7 年 6 月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	7	議席 番号	9	氏名	稲 葉 晃 司 議員	2 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
		(3) 令和 7 年度は市内の小中学校に A E D が各 1 台増設されることから、更なる市民への啓発として、小学校高学年を対象にした普通救命講習（導入講座）、中学生を対象にした普通救命講習に積極的に取り組んでいくことで、救命率の向上だけでなく、児童生徒に救命に関する知識と命の大切さについて学ぶ機会を設けることを提案する。市当局の見解について伺う。				